

もど子と人婦

第七十六號

大正六年六月一日

夏の寢床

冬は夜なかに眼を覺まし、
きいろいあかりできもの着る。
夏は、まつたくあべこべに、
ひるまの内から寢にやならぬ。

まだ木の上には鳥が跳ぶ
おもてを大人が歩いてる
それを見ながらききながら
寢床の上には横になる。

つらいことではあるまいか
空が明るく青いのに、
もつと遊んでゐたいのに、
ひるまの内から寢やうとは。

——スチーブンソン——